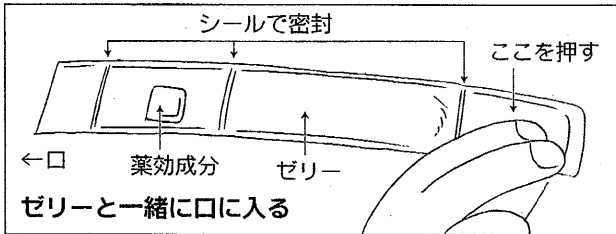


右の先端部分を押しと中央に詰められたゼリーが左端の薬効成分を押し込んで口の中に入る＝モリモト医薬提供



薬用ゼリー剤の仕組み



# ゼリーで薬誤飲防止 大阪のベンチャーが開発

水をきちんと飲めない高齢者でも安全に服用できる薬用新型ゼリー剤を、ベンチャー企業のモリモト医薬(大阪府吹田市、盛本修司社長)が開発した。細長い筒状のフィルムに薬効成分とゼリーを分けて閉じこめ、端を押しとゼリーが薬効成分を包んで口の中に入る。飲料水を確保できない災害現場でも服用できるなど利用範囲は幅広い。18日までドイツ・ベルリンで行われ

た国際包装学会で発表された。

ゼリーとオブラートで包んだ粉末状の薬効成分をスティック片に分けて入れる、というもの。

薬効成分は粉末か錠剤にする化学変化を起こしにくく、保存が利く。一方、水分に混ぜると化学変化を起こし、保存が利かない。このゼリー剤は、オブラートとゼリーを混合しないよう、フィルムの中でシールで仕切るために保存が利き、多

くの医薬品で適用できるという。

同社によると、認知症などで水を肺に飲み込んでしまう高齢者が約20%いる。こういった人に錠剤を飲ませる時は、錠剤を砕いて粉末にして葛などどうみをつけて看護師らが飲ませる必要がある。人手不足の医療や介護現場で問題となっていた。

ゼリーだと食道から胃にゆっくり伝わって落ちるため、誤飲の危険性が少ない。また、錠剤や粉末の薬を嫌がる幼児でもゼリーと一緒に飲むのならば、抵抗は少ないという。

同社は日米欧などで特許を取得。複数の製薬企業と共同開発を進め、医療用医薬品や一般用医薬品、健康食品への適用を検討している。14年の発売を目指す。将来は数百億円市場に発展すると期待している。

床病理学)は「幅広い患者の生活の向上につながる。世界的に利用される可能性がある」と評価している。  
【田畑知之、新宮達】